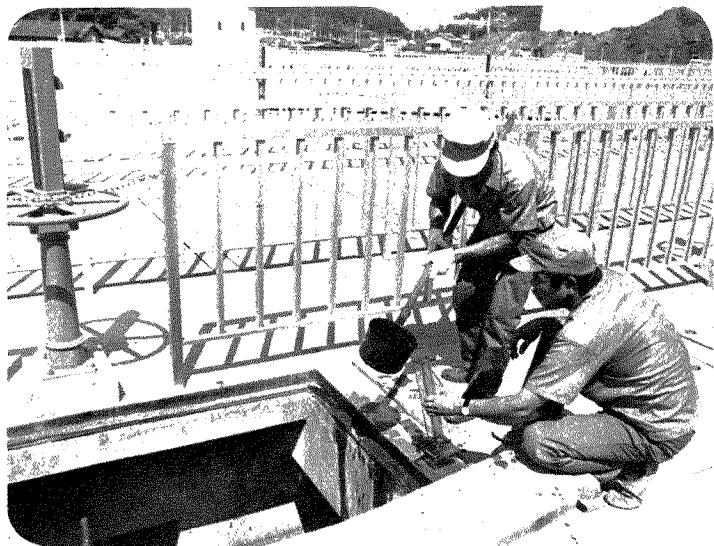


9月号

# 県民の友

発行/和歌山県知事公室広報公聴課 〒640 和歌山市小松原通1の1 ☎0734(32)4111



まっ黒な汚水も、最終沈殿池をとおるころには、透明に近くなつて、河川へ流せる。このようになるまで約10時間。

炊事、洗たく、風呂、そして、し尿…私たちが日常生活を続けていく上で必然的に出てくる汚水や汚物。人口が少ないときは特別な手だてを加えなくとも自然がきれいにしてくれたものも、人口が多くなつてくるとそつはいきません。

次第に生活排水路や農業用水路がよこれ、不衛生であるばかりではなく、農業や水産業を営むために大切な河川や海をも汚染してしまいます。そこで、それを防ぎ、本来、川や海がもつてゐる自浄作用を人工的にすすめ、都市全体を清潔に保つための施設—公共下水道が必要になつてきます。



## 遅れを取りもどしたいー 下水道の整備

各市町村が単独で下水道を建設することは、水質の保全効果や建設費の面で効率が悪いので流域の県や市町村が一体となって広域的に整備する下水道—これを「流域下水道」と呼んでいます。この場合、下水道の

「清流」を保つために!!

県が策定中「紀の川流域下水道基本計画」

下水道普及率の国際比較

国名	普及率
イギリス	94
西ドイツ	79
アメリカ	71
イスラエル	49
カナダ	40
日本	24.6%

なかなか、和歌山県は、最下位というのが実情です。ちなみに、県下で下水道の建設をすすめているのは、和歌山市、高野町、太地町の三市町だけとなっています。

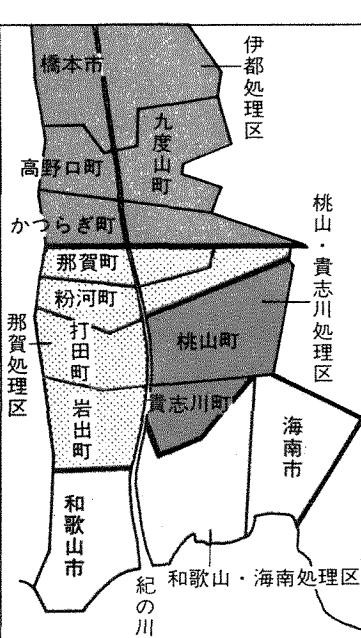
県下、既設の公共下水道では一八八〇、六千八百人の処理しかできず、この数字は市街地人口に対して一・六%にしかなりません。そこで、昭和六十年度には少なくとも市街地人口の五〇%になるよう県下市町村の協力をもとに下水道建設計画をすすめているところです。

大きな下水道の中をギャングが逃げていく—というような場面を外国映画で見た方も多いでしょう。欧米諸国では、早くから下水道の設置に取り組み、第二次大戦のころには、すでに現在の八〇%は建設されていたといいます。

これまで国全体が産業基盤の整備に重点がおかれて、生活環境の整備の方はあとまわしにされてきたことなどの理由で、日本の公共下水道の普及率は二五%といふ低さ。

### 低い下水道の普及率

ところで日本はどうでしょう。し尿などは、長い間肥料として利用されてきたこと、また、最近まで国全体が産業基盤の整備に重点がおかれて、生活環境の整備の方はあとまわしにされてきたことなどの理由で、日本の公共下水道の普及率は二五%といふ低さ。



この計画では、計画処理人口約十六万五千五百人、処理面積三〇〇〇haの生活用水が処理できる大規模なものになります。

紀の川流域別下水道整備総合計画案

これに統いて、下流市町の下水道整備計画をすすめていく予定です。

- 雨水を排除し、浸水から家屋を守る!!
- 生活環境を改善!!
- 地下水を汚したり、カやハエ、悪臭の発生を防ぐ。
- 水洗トイレがつくれる!!
- 川や海がきれいに!!

(公共下水道) 下水道を処理するため地方公共団体が管理する下水道で、終末処理場または流域下水道に接続しており、汚水を出す施設の大部分が暗渠になつて構造のもの。

### 「田辺湾流域別下水道整備総合計画」「調査に着手!!

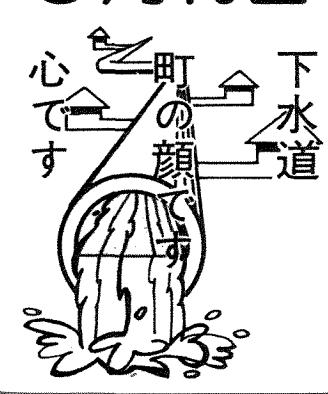
田辺湾と南部川、古川、左会の水質をきれいなままで保つために、また、街をきれいにするためにはどのような下水道

21世紀の人々のためにも文化的な生活を送るためになくてはならない「緑の下の力も」—公共下水道。これの建設には、何百億円、何千億円といふ建設費が必要なため、財政的に余裕がなかつたというものの、そんなに重要な施設ならなぜ、もっと以前から計画し、建設にとりかからなかつたのかといふことが多いことでしょう。そのとおり、この遅れを取りもどし、下水道の普及率、全国最下位という汚名を少しでも早く返上できるよう、県下の市、町村、県が力を合わせていく覚悟をかためています。

下水道の役割を十分に理解していくいただき、それに伴つ終末処理場の建設、また、最終的に出てくる汚泥の処理などについて積極的なご協力を願います。

「二十一世紀に生きる人々のためにも」。

## 全国下水道促進デー 9月10日



# 六月定期 県議会だより

議会は六月十六日突発したコレラ対策のため、開会に先立つ十八日全員協議会で国への要望を決議、続いて二十三日から二十五日まで政府等へ対策要請の陳情を行い、また、開会後は、七月十三日に被害救済対策の要望決議を行ったほか、コレラ対策等について活発な論議が行われた。当局から十八議案が提出されそのうち、人事委員の選任承認と、コレラ禍被害救済融資の予算を議決し自然閉会となつた。

○は質問 △は答弁

## コレラ禍対策

いと言われているが、今回の事  
件の発端は外国からの伝染病毒  
の侵入防止に当たる国の検疫本

△コレラに対する正しい衛生知識の講義を国民全部が持っていたなら、入荷拒否等による甚大な被害にならなかつたと思う。

▽コレラは日本には常在しない  
検疫传染病であり、その侵入は  
もとより府県段階で防げるもの

健規則」、国外からの侵入防止については「検疫法」国内に侵入し、発生した場合は「伝染病予

がたまたま本県であつたといふ認識に立つべきであると考えてゐる。このような観点から国に

は、社会的、経済的情問題に対する面が希薄であることは否めない事実である。今回の事例

○コレラの感染経路について一般にフィリピン墓参団説が強いと聞かれるが、根拠なき早合点

○コレラ禍に伴う各種の被害  
状況と後遺症の現況○防疫活動  
等を口述する異常な関係方に  
二のほか

△フィリピンがコレラ汚染地域であるとの事だけで安易に基準を定めると、それはそれで問題ないが、一方で、この事実をもとに、他の地域でも同様の対応を取らざるを得ない状況が生じる。これは、現地の状況を理解していないからである。

県市町村一体となった恒久的公  
共下水道対策等環境整備事業の  
推進○コレラ禍に伴つ本県の生

○今回のコレラ禍は、コレラとは関係のない一般国民の衛生知識の欠如と、国民の過度の不安

疑が行われた。



## 水產・漁業問題

## 臨時県議会

有田県営畠地総合整備事業の推進・有田川防災対策・私学振興対策・高等学校の学区制と選抜制度・白ろう病問題・自然保護と産業廃棄物問題・みかん問題・身体障害児問題・住金埋め立て問題・大規模店舗問題・植樹祭跡地利用など。

# 県政のうまいき

- ⑥狭い路地、へいぎわ、がけ、川べりに近寄らない
- ⑦山津波、がけ崩れに注意
- ⑧海岸では津波、低地では漫水に注意
- ⑨余震を恐れず、デマに迷うな
- ⑩砂埃を防ぎ、衛生に注意

昭和52年度、中小企業振興試作奨励賞の補助金の申請は9月30日までに

県では、中小企業者の新規考案製品や品質、機械、形状、意匠などの改善による試作および研究に要する経費に対して補助金を交付します。補助の対象は昭和52年4月1日から昭和53年3月31日までの試作研究に要する経費で補助率は2分の1です。お問い合わせは、県庁商工課、各県事務所産業課へ。

## 老後に生きるよろこびを

**老人福祉週間** 9月15日～21日 ●85歳以上の方に長寿祝金を、老人ホーム入所の方に慰問品を贈ります。●100歳以上の方に記念品を贈ります。

